

#### 4 主な遺物



縄文時代の土器



縄文時代の石器



古墳時代の土師器と土玉



平安時代の土師器

#### 5 まとめ

今回の調査では、縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代、江戸時代の竪穴建物跡や溝跡、土坑などを確認しました。その結果、縄文・古墳・平安時代には集落が営まれ、室町時代以降は溝や道路が構築されており、各時代で様々な人々の営みがあったことが明らかになりました。その中でも縄文時代の遺構は、谷の縁辺部にクリやドングリなどの堅果類の貯蔵穴とされている袋状土坑が群集し、縄文土器や石器などが出土しました。土器の大半は破片であり、壊れた土器を窪地になった土坑の中に捨てたと考えられます。また、土坑の底面に置いたり、並べたりしたような状態で出土した土器も見られました。石器は、狩猟道具の石鏃が少なく、石斧や敲石、磨石、石皿などが多く出土しています。このことから、日々の生業は堅果類や貝類などの採取活動を中心としていたことが想像できます。

また、平安時代の竪穴建物跡から出土した小形銅製仏像は、高さ 3.3 cm と非常に小さなものです。発掘調査による奈良・平安時代の出土例としては県内 5 例目となり、発見例の少ない遺物です。仏教は奈良時代から平安時代初め頃、中央の貴族や地方の上級役人の信仰を集めており、特権的な階層に広まっていた。仏像が出土した竪穴建物跡は、壁隅部に竈をもつ一辺約 3 m の小型の建物跡です。国府や国分寺のある石岡市の中心部から離れた東田中遺跡から小形銅製仏像が発見されたことは、平安時代の中頃以降、仏教が徐々に庶民にも広がっていったことを物語っています。

この資料は、調査中途の情報で、最終的な結果ではありません。資料の引用・掲載はご遠慮願います。



次の現地説明会は、2月4日(土)下妻市大堀東遺跡で開催予定です。発掘調査の成果をぜひご覧ください!!

平成 29 年 1 月 22 日 (日) 発掘調査遺跡現地説明会資料  
一般国道 6 号千代田石岡バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 東田中遺跡 (ひがしたなかいせき)

所在地: 石岡市東田中字貝柄 828 番地ほか  
調査期間: 平成 28 年 7 月 1 日~平成 29 年 1 月 31 日  
調査面積: 5,162 m<sup>2</sup>  
委託者: 国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所  
調査機関: 公益財団法人茨城県教育財団 (石岡事務所)  
Tel 029-225-6587 http://www.ibaraki-maibun.org

### 1 遺跡の概要

東田中遺跡は石岡市の南東部に位置し、山王川左岸の標高約 25m の台地上に立地しています。霞ヶ浦周辺の台地は、支谷によって樹枝状の台地が数多く形成されており、多くの遺跡はそれらの小台地上に所在しています。

当遺跡の調査は、平成 23 年度から断続的に行われ、今回が第 5 次調査となります。これまでの調査では、縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代、江戸時代の遺構や遺物が確認され、縄文・古墳・平安時代には集落が営まれ、室町時代には高野浜城との関連をうかがわせる施設が構築されていることが徐々に明らかになってきました。



東田中遺跡と周辺の遺跡  
(『いばらきデジタルまっぷ』より、一部加筆)

### 2 調査の概要

今年度の調査は、平成 28 年 7 月から平成 29 年 1 月までの 7 か月間の予定で実施しています。調査区は、市道部分の西部と、昨年度調査区の北側及び東側の東部の 2 か所です。調査区の西部からは、縄文時代などの竪穴建物跡 3 棟、室町時代の溝跡 4 条、縄文時代などの土坑 24 基、道路跡 1 条を確認しました。東部からは縄文時代から平安時代までの竪穴建物跡 7 棟、縄文時代の土坑 582 基、江戸時代以降の溝跡 3 条、道路跡 2 条、縄文時代の遺物包含層 1 か所などを確認しました。

遺物は縄文土器(深鉢・浅鉢)、土師器(坏・碗・甕・高坏)、須恵器(蓋・瓏)、土製品(支脚・土玉・土器片錘・土器片円盤)、石器・石製品(石鏃・石斧・敲石・磨石・石皿・凹石・垂飾・五輪塔)、金属製品(刀子・小形銅製仏像・銭貨)などがあり、コンテナ数で約 170 箱分が出土しています。



平安時代の小形銅製仏像

### 3. 主な遺構



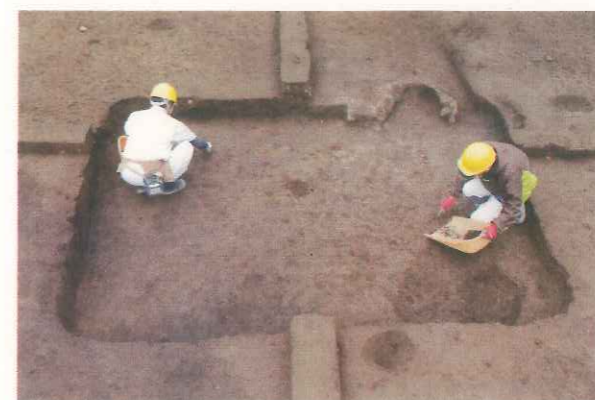
**【第947号土坑】**  
縄文時代中期（約4,500年前）の袋状土坑です。土坑が途中まで埋まった状態で土器が捨てられていました。



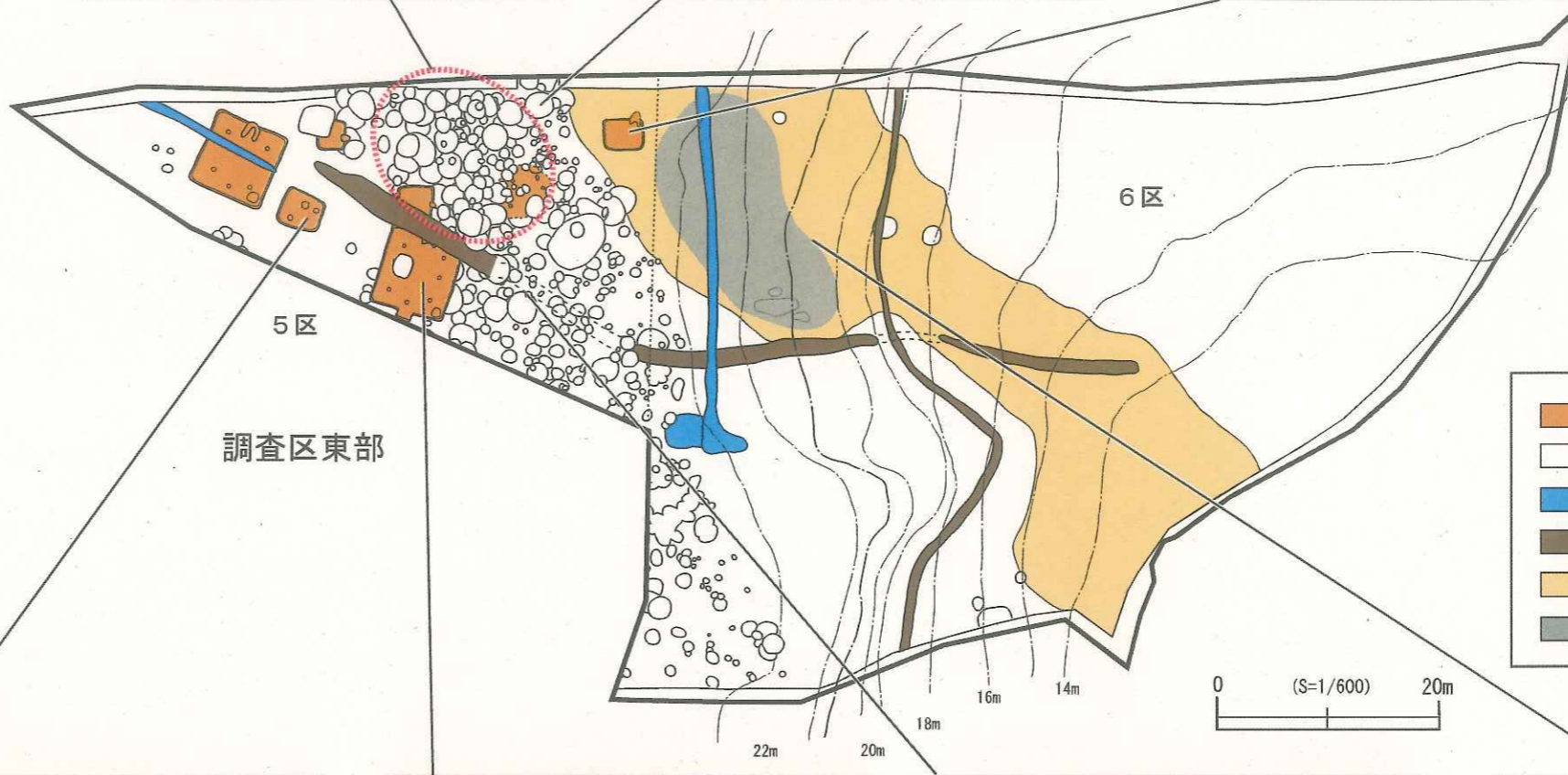
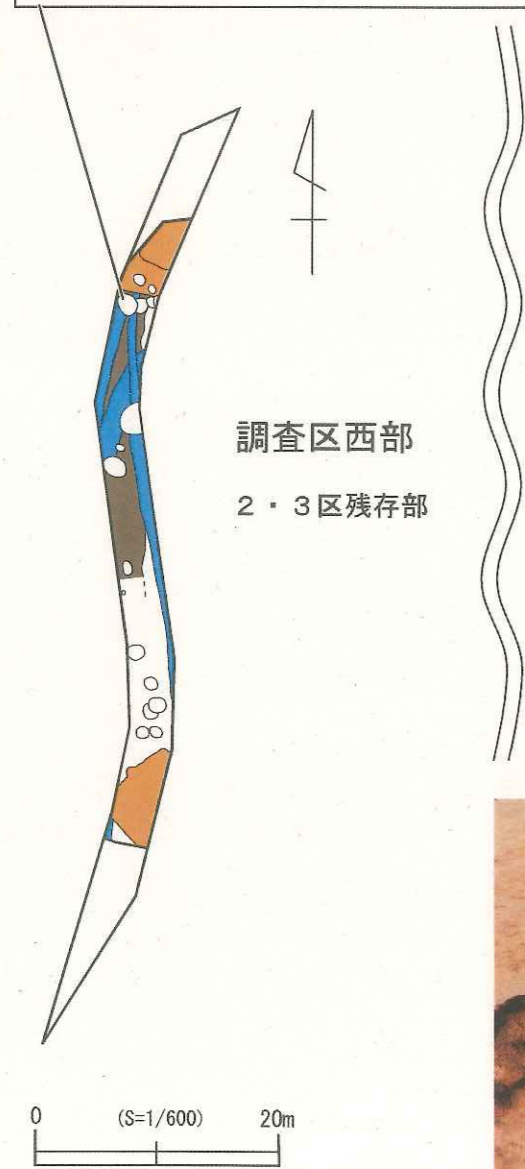
**【縄文時代の土坑群】**  
大小さまざまな土坑が複雑に重なりあっていました。東側の谷に沿うように展開していると考えられます。



**【第1038号土坑】**  
独特な文様が施された縄文土器が出土しました。この文様は、中部地方などの影響を受けたものと考えられます。



**【第173号竪穴建物跡】**  
北東隅部に竈を付設した平安時代の竪穴建物跡です。床面から、小形銅製仏像が倒れた状態で出土しました。



- 竪穴建物跡
- 土坑
- 溝跡
- 道路跡
- 遺物包含層
- 貝層（推定）



**【第167号竪穴建物跡】**  
平安時代（約1,100年前）の竪穴建物跡です。竈を持たず、中央部に炉を設けていることが特徴で、内面を黒色処理した土師器が出土しました。



**【第170号竪穴建物跡】**  
北壁に竈、南壁に張り出し貯蔵穴をもつ古墳時代後期（約1,500年前）の竪穴建物跡です。竈の中から土師器甕と57点もの土玉が出土しました。



**【第1025号土坑】**  
直径約50cmの小さな土坑から、縄文土器が逆さの状態出土しました。

**【第4号遺物包含層】**  
谷部に土器を捨てていくことによって形成されたもので、多量の縄文土器や石器を含んでいます。斜面中腹では貝層が確認されています。次年度に調査する予定です。